

流行ニュース：< E型肝炎、スーダン（更新¹） >

2004年5月22日から8月27日の間に、早期警報対応システム(EWARN)を通じて、E型肝炎が疑われる3,753症例と55例の死亡例が報告された。西Darfur 地区は現在も流行が最も深刻で、患者の73%が同地区で感染している。国連児童基金（UNICEF）は、連邦と州の保健当局およびNGOと共に、安全な飲料水の確保に努めている。E型肝炎の拡大を抑制し、新たな患者数を減少させるため、難民キャンプで安全かつ清潔な飲料水を十分確保し、衛生状態を改善させるための更なる対策が必要とされている。

参照¹No.36,2004,p.321

< 黄熱、ベネズエラ >

2004年9月14日、ベネズエラで死亡例1例を含む2症例が、検査診断により黄熱であったとの報告をWHOアメリカ地域事務所が受理した。この2症例の発生は2004年8月後半、Merida州 Sucre自治体で確認された。現地での調査及び更なる症例発生を防止するためのワクチン接種キャンペーンを準備するため、専門家チームが直ちに編成された。

昨年、ベネズエラでは黄熱感染の危険性があると考えられる全国17州の住民1,000万人に対してワクチン接種計画が開始された。散発症例の発生を検知し、流行制圧対策を適宜実施できるよう、特別なサーベイランス計画も実施されている。

今週の話題：

< メジナ虫症根絶計画：2004年1月から7月の状況 >

メジナ虫症を根絶するための地球規模の計画は2004年の最初の7ヶ月間、大いに前進した。2004年1月から7月のメジナ虫症の症例数は世界で9,009例であり、2003年の同時期より46%減少した（表1）。減少率に従って、国を並べると以下のようであった（汎例 減少率%、現在の症例数）。

ウガンダ（100%、1）とエチオピア（100%、13）、トーゴ（89%、191）、ベナン（87%、3）、ブルキナ・ファソ（85%、26）、スーダン（74%、2338）、ナイジェリア（68%、379）、コートジボアール（59%、17）、マリ（57%、47）、モーリタニア（25%、3）

ガーナは0%（5925）、ニジェールは44%増加した。

表1：メジナ虫症月間報告症例数、2004年1-6月（WER参照）

< Darfurでの麻疹による死亡の防止、スーダン >

* 背景：

スーダンのDarfur域は6,558,698名が居住しており、3つの州（北、南、西）からなる。過去に、この地区は国内紛争の結果、大量の難民が発生した。100万人以上が難民となり、組織化された、あるいは組織化されていないキャンプに居住している。さらに、17万人以上の居住者は、チャド国境域の難民キャンプに避難するため国を離れてしまっている。また、国内紛争は農業経済、健康管理サービスの援助にも悪影響を及ぼし、至るところに予防接種を受けていない栄養失調の子供がみられるようになった。

2004年3、4月に、スーダン連邦保健省（FMOH）は西、北 Darfur域での麻疹の死亡率が高いという報告を受けた。保健省とNGOは9か月から5歳の子供への麻疹ワクチン接種キャンペーンを展開し、6回のキャンペーンにより約8万人の子供が2004年3月から5月中旬までに接種を受けた。それにもかかわらず、麻疹ウイルスの感染はキャンプ内で起こり続けている。したがって、FMOHは他の機関と協力して、麻疹ウイルスの感染減少と麻疹による死亡の防止を目的とする麻疹ワクチンキャンペーンの計画を立てた。しかし、治安の悪化、絶え間ない人口移動、差し迫った雨季などによって、相当な制限を受けた。

これらの問題を解決するため、WHO、UNICEF、FMOHは麻疹ワクチンキャンペーン実施の可能性をすばやく判断し、対象人口（2,607,082名）の83%にワクチン接種した。西 Darfur 域の住民の大部分はチャドに移住してしまっただけでなく、ワクチン接種可能性の判断には、紛争がEPIに与える影響が考慮される（EPIの基盤の崩壊、冷凍機材の略奪）。

これらの評価をまとめた結果、9ヶ月から5歳の子供への麻疹ワクチンキャンペーン実施が認定された。このキャンペーンは国内紛争の軽減、EPIサービスの回復、冷凍機材等の調達再開なども念頭において行うこととなった。また、国民の栄養状況の悪化とポリオワクチンの低普及率を考慮して、この計画は5歳以下の子供に対してポリオワクチン接種とビタミンA供給の実施も追加した。

* キャンペーン計画：

地方レベルのスタッフ、NGO、国際パートナーは、キャンペーンガイドラインを考慮し、詳細な日程をたてた。麻疹ワクチンと安全に接種する機材を集めて、テレビ、ラジオ、新聞を利用して社会を動員し、2004年5月後半、計画は完結した。

* 急性疾患の監視：

2004年4、5月、WHOはFMOH、国際連合人道的援助団体、NGOと共に、病気の感染モニタリングとDarfur域での発生を早期に検出するため、早期警報システムの開発に関して協力した。監視団体は、麻疹を含む12の疾患状態のリストを作成し、症例数と2つの年齢層（5歳以下、または5歳以上）の発生数と死亡数をデータに加えた。各疾患の症例数をもとに大規模な流行が始まると判断するための症例数が決められた。監視公報は症例報告源にも配られている。

* 結果：

・キャンペーンの到達範囲

キャンペーンは南Darfur域では2004年6月5日から、西、北Darfur域では2004年6月12日からそれぞれ10日間連続で実施され、対象人口の77%が接種を受けた（表1）。接種率は、比較的紛争が少ない南Darfur域が最高で、危険な地域に居住者が多い西Darfur域の接種率は最低だった。これは、南Darfur域では紛争地域に入る許可を得られたが、西Darfur域では許可を得ることが出来なかったことが関与している。また、西Darfur域は雨季開始の影響も受けた。

全体として、5歳以下の子供（93,187名）がポリオの予防接種を行い、ビタミンA投与率は96.8%だった。表1：州別麻疹予防接種キャンペーンの到達範囲、Darfur、2004年（WER参照）

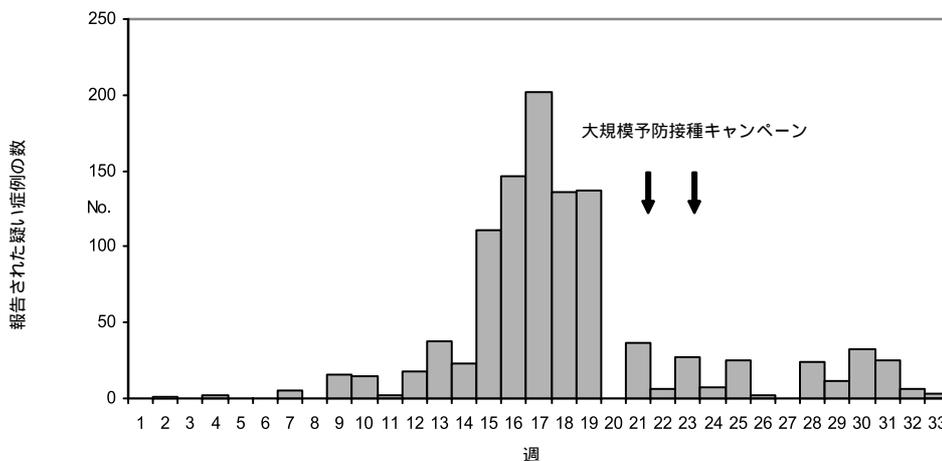
監視者の仕事には、社会動員活動を評価するために道具を用いるのと同時に、予防接種期間中の質的指標を監視するためのチェックリストを用いることと、予防接種後の副作用の調査が含まれている。加えて、迅速で便利な調査が、踏み入ることの難しい地域を監視するために利用されている。キャンペーンの到達度を監視するために集計表が利用されている。データは連邦に集められ、編集され解析される。

* 疾病の監視：

キャンペーン前の調査では、3つの州全てにおいて麻疹ウイルスが常時流行していることが明らかになった。特に流行時期である第15から19週においては、発生数が最高値となっている（図1）。

麻疹と疑われる症例がキャンペーンの終了後も報告され続けている。しかし、ほとんどの症例は、ラボ検査にて診断が確定されているわけではない。表2：大規模な麻疹予防接種キャンペーン以前の西、北Darfurの国内避難民における報告麻疹症例と死亡例（WER参照）

図1：麻疹の報告症例数、週別、Darfur、2004年



* 編集ノート：

2003年10月、FMOHはWHO-UNICEF計画をもとにスーダンの麻疹死亡率減少のための大規模な計画を立てた。これは、幼児のワクチン接種普及率改善、すべての子供への麻疹ワクチン接種の機会の供給、麻疹の監視強化、急性疾患の子供の治療改善、などを目標としている。

麻疹の流行により、難民、特にキャンプの居住者にとってしばしば死に至る。人口増加と栄養失調は、小児間での感染の危険や、全ての年齢層での病気を増加させる主な危険因子である。Darfur域で観察された高い死亡率は、良く似た環境の研究で得られた死亡率と一致しており、死亡数減少のための麻疹ワクチン早期投与の重要性を示している。従って、麻疹ワクチン接種はこれらの環境にて実施すべき活動の1つである。

キャンペーン実施の際、ワクチンの購入、冷凍機材等の調達再開、キャンペーンの支持、などが重要であるが、年齢制限、移民の連続的な移動、自治体でのワクチン接種の低普及率などにより限界がある。

Darfur域でのワクチン接種は対象人口の約77%がキャンペーン中に実施できた。その後の発生は、キャンペーン到達率が低い西Darfur域からの報告だった。最近、スーダン政府とDarfur域の反乱軍の代表者が交渉し、これらの地域の子供にワクチンを接種することが決定した。治安が改善すれば、FMOHはこれらの地域でのキャンペーンを指揮するつもりである。

（三好真琴、正井栄一、高田哲）